

平成29年度 常葉大学附属常葉中学校高等学校 学校評価

[評価基準は A:十分達成できた(80%以上) , B:ある程度達成できた(60%程度) , C:あまり達成できなかった(40%程度) , D:達成できなかった(20%以下)]

区分	No.	評価項目	評価内容	評価	今年度の取り組み事例と次年度へ向けて	学校関係者評価委員の意見
教育活動全般	1	分掌活動	分掌組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な分掌運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教務課:職員の業務を効率化させることも主な仕事であるため、各自の仕事内容の把握やその進捗状況の確認をしっかりとすることができ、円滑な分掌運営を行うことができた。特に課に関する書類作成・奨学金関係など、事前準備に重点をおいた。今後も課の協力体制を強化し、運営方法の改革に努めていきたい。 ・進路課:分掌業務分担を正確に把握し、進捗状況の確認等をきちんと行うことができた。特に生徒への進路サポート・対外模試・就職試験対策・面接指導に重点を置いて指導した。その結果、大学進学者の実績が向上し、特に常葉大学の合格者を116名出すことができた。 ・生徒課:確実に業務を遂行するために、早めの準備を心がけ、職員を円滑に動かすことができた。生徒の活動を自主的かつ活発にするために、生徒会活動の指導に力を入れ、中学、高校の生徒会による挨拶運動や地域清掃、静岡ホームへの慰問など多くの活動が積極的に行われた。また、生活指導においては、学校生活アンケートの実施・交通安全教室の企画、運営・生活委員会の取り組みなどを通して、問題行動の抑止につなげることができたと考えている。 	1.「常葉中高生に読ませたい60冊」にはどのような本があるか。 学校:(委員の皆さんに一覧を提示) 文学小説などもありますが、生徒が興味を持って読んでもらえるような本をセレクトしました。特に読書経験を積むことで見識を広げることができたり、想像力や感性を身につけ、考える力を養うことができる作品、また、自分を見つめ直したり、自分の生活を見直す事ができるような作品を選びました。 2. PTA(保護者)がおすすめの本を紹介するというのはどうか。 学校:保護者の皆様から本のご推薦をいただけることは、大変ありがたいと思います。今後、ご検討したいと思います。
	2	学年運営	学年組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な学年運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部の仕事分担に配慮し、職員が一丸となって教育できる環境を整えた。生活指導においては、自分のクラスに関わらず声かけをし、規律ある生活ができるように促すことができた。また、進路指導では進路行事(講演会、模試等)の円滑な実施や進路情報の提供など、協力的な運営ができた。 ・自分のクラスを責任を持って指導できた。問題になりそうなことについては自己判断せず学年主任に相談し、適切かつ迅速に対応するようにした。 ・学年内で情報共有がしつかりできた。日々の業務や行事等をスムーズに行うことができ、不測の事態が起こった場合の緊急対応も、迅速にできたことは大変良かった。 ・中等部では、先生方が意欲的かつ協力的で、誠実な集団であるため、常に前向きな活動ができた。特に英語科主催の行事や福祉講座・マナー講座などの各講座を滞りなく実施できた。 	
	3	コース・系統運営	コース・系統の組織の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・GSコースの各行事において、事前準備をそれぞれの教員が率先して行うことができた。また、過去の資料を改良することによって円滑なコース運営に寄与することができた。その他にコースの特色教育の1つであるイギリス研修では、業者・現地のコーディネーターと連携し、学習効果の高い研修を行うことができた。 ・保育系において、行事の企画運営を確実に行うことができた。行事を通じて生徒の自主性や進路意識を高揚させることができた。行事の1つであるオペレッタを通じて、生徒にこの行事の意義を考えさせながら取り組ませ、保育士の役割や幼児期の発達について理解を深めさせることができた。 ・看護・医療系では、情報共有や教員間相互の協力で重点を置き、系統内での指導に違いが生じないようにした。その結果、系統別講座・高大連携講座・看護医療模試などの行事を充実させることができ、進学実績に結びつけることができた。 ・総合文科系は色々な進路が混在し、もともと運営が難しい系統であることから、この系統を効果的に運営するために講座の変更や行事の検討をしていきたい。 	
	4	教科活動	教科の中での役割分担を責任を持って果たし、円滑な教科の運営に協力できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・理科ではコンクールや理科的な活動の募集の呼びかけを積極的に行った。理科室の備品管理、清掃や実験の準備の手伝いなど協力体制をしっかりと構築することができた。また、理科会議で情報の共有をはかり、円滑な教科運営ができたと思う。 ・体育科では、新体力テストの県内順位の向上を目指すことや、体育の三大行事(球技大会・体力テスト・体育祭)の成功を目標に掲げて取り組んできた。教科会議で十分な検討がなされ、安全かつ積極的な運営ができた。今年度において、目標は十分達成されたと思う。 ・国語科では、コミュニケーションをとりながら、教科業務の進捗状況などを確認しながら仕事を進めることができた。特に読書指導では「常葉中高生が読ませたい60冊」を選定し、読書カードの作成などの指導を行った。また、教科の行事である漢字検定などの運営を円滑に行うことができた。 ・英語科の主な行事であるGSキャンプ・英語コンテスト・英検などの企画・運営を円滑に行うことができた。特に英検については、ポスターを作成し、積極的な受験を呼びかけたり、英検の学習法などを検討した。申込みから受験までの段取りや二次試験面接の計画など丁寧にやったことで、ミスなく実施できた。 	

学習指導・教務関係	1	教科指導	生徒の学力の定着、向上や学習意欲を引き出し、生徒の満足度の高い授業実践ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中、生徒が発言しやすい雰囲気作りに努め、生徒の意見を授業内容に活かすことで、生徒主体の授業を展開した。 ・美術において、コース・進路志望に応じた課題設定をし、生徒の主体的な創作活動を促すことができた。今後も生徒の実情にあった課題研究をしていきたい。 ・テキストの内容をどのように扱うかを工夫した。知識を増やすことや、考える力を伸ばす、表現力を身につけさせることなどを目標にして取り組んだ。 ・アクティブラーニングを実践した。自ら考え、グループワークの中で意見を交換することで、授業内容を深めさせることができた。 ・高校生に必要な国語力を習得できるように生徒の実態に合わせた学習計画を立て、実施することができた。古文・漢文の基礎知識を習得できるようにし、次年度の授業につなげられるように指導することができた。 ・現在、起こっている食の問題をテーマにNIEを実践し、社会問題に注目させることや、教科の大切さを理解させることができた。 	<p>1. アクティブラーニングを今後どのように実践していくのか。 学校:①今年度、図書館にWi-Fiを設置し、i-Padを37台を導入しました。本校では図書館を「学習センター」としても活用し、ICT機器を使い、課題発見・解決型の授業を図書館で行います。 ②その他に授業等、グループワークでの自由な発言を記録する「えんたくん」を活用し、協調的で深い学びを実践しています。</p> <p>2. 今後、学習面でどのような取り組みがなされていくのか。 学校:①学習に新聞を活用するNIE (Newspaper in Education)を積極的に授業や朝読書などに取り入れます。また、「新聞感想文コンクール」(静岡新聞社:平成29年度 学校賞受賞)などにも積極的に応募します。 ②2020年大学入試制度改革に対応するために、平成30年度から英語検定を全員受験とします。</p> <p>3. 委員から見て、先生方の学習指導の取り組みは、大変熱心であると思う。生徒から見た評価や満足度はどうなのか。 学校:年度に2回「授業アンケート」を実施しています。評価・満足度は高い数値となっています。生徒の意見から授業改善を行ったり、授業への新たな取り組みについて検討しています。</p>
	2	授業規律	私語や居眠り等を放置せず、落ち着いた雰囲気を作って授業が実施できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・板書計画に気を配り、ノートを取る時間をきちんと与えることで授業に集中させた。また、ペアやグループで活動させる時間を増やしたため、活発な雰囲気の授業ができて、大変良かった。 ・授業のルールをしっかりと作り、落ち着いた授業ができるようにした。 ・休み時間と授業の切り替えをしっかりとさせ、授業開始の挨拶の指導を徹底することで、緊張感を持たせた。また、私語や居眠りは絶対に許さないという強い姿勢で臨んだ。 ・机間巡視を積極的に行い、授業に集中できていない生徒に注意を促した。ペア活動を多くし、協力して学ぶ雰囲気作りに努めた。 ・アクティブラーニングを授業に取り入れることで、私語・居眠りができない環境を作ることができた。 ・美術作品の鑑賞や実習作業における必要な話と、不必要な私語を区別し、創作に集中できる環境を維持することに心配りをした。 	
	3	欠席・遅刻抑止	遅刻・欠席が多い生徒の状況把握や改善への働きかけができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校に陥った生徒とじっくり向き合い、カウンセラーや学年主任と協力体制を作り、状況を改善させることができた。 ・家庭事情を把握し、家庭での指導状況を勘案した個別指導を実施した。その結果、遅刻・欠席を減少させることができた。 ・遅刻理由などの確認を細かにし、事後指導として生活改善のアドバイスをした。また、保護者との連絡を密にし、学校と家庭の双方から指導にあたった。 ・毎日の声かけを行うことや、将来の進路に絡めた指導を行った。また、体調管理の重要性を話し、安易に遅刻・欠席をしないように意識付けをした。 	
	4	読書指導	朝読書が落ち着いてできるよう、クラス内の雰囲気作り(担任)、遅刻者指導(副担)を徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個性に合った本を探させるヒントとして、担任の「おすすめ本」を置き、読書を促すとともに、本の感想なども話し合わせた。 ・生徒に読書の重要性を話をしたり、クラスのルールを作った。また、担任自ら集中して読書することが、雰囲気作りになると考え、積極的に取り組んだ。 ・朝読書前に机周りの片付けを徹底させ、落ちついて読書できるように環境を整えた。また、静かな状況をつくるための声かけなどを徹底した。 ・余裕を持って登校させ、朝読書に準備をきちんとさせ、HRで朝読書を話題とした話し合いをした。その結果、自発的の読書に取り組めるようになった。 ・「常葉中高生に読ませたい60冊」をより充実させ、今後の生徒の成長や将来の進路(入試、小論文など)につなげていけるようにしていきたい。 	

生徒指導・総務関係	1	生活指導	服装・頭髪等の違反者の生活指導や、言葉遣い、挨拶などマナー教育が徹底できたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・服装や頭髪などの身なりがしっかりしていることが、常葉中高生の良さであると思う。規律などに対する考え方や意識が変わるように言葉を選んで指導した。風紀検査では、指導が平等になるように声かけをし、また、進路指導と絡めて風紀面や言葉遣いをきちんとして心がかせさせた。 ・風紀検査の指導については、検査だけパスさせる指導ではなく、日頃から気になる生徒にその都度、声かけすることを徹底した。 ・指導すべき生徒がほとんどいないのが現状である。常に服装・言葉遣い・大きな声で挨拶ができるように指導をすることができた。 ・朝のSHRや朝読書時に生徒一人一人の表情や服装などを観察し、生徒の様子に変化がないか気を配った。本校は生徒指導がほとんどないが、これは日頃の指導の成果によるものであり、また、伝統に守られているのではないかと感じる。 ・少数ではあるが、挨拶の声が小さかったり、言葉遣いが気になる生徒がいた。今後、改善策を考えて対処していきたい。 ・中学生のマナーにはすばらしいものがあり、特に職員室への入退室の挨拶はしっかりできている。 	<p>1. 言葉遣いはどのようにきちんとしてきているのか。 学校:職員室へ入退室や教師に対する言葉遣いが、しっかりできていると思います。一部の生徒の言葉遣い、また、友人同士での言葉遣いでは少し気になるところもあります。 委員:①「あいさつ運動」が盛んに行われている。出勤時、学校の前を通るので、良い雰囲気生徒が登校している姿を拝見している。また、生徒会の生徒が、外部の人たちにも挨拶をしている姿は、大変好感が持てる。 ②一部の生徒の言葉遣いが気になるということであるが、今後は先生方も適切な言葉遣いができているか、雰囲気作りができているかなど、振り返りが必要かもしれない。また、先生と生徒の立場の違いを理解させる事が必要だと思う。</p> <p>2. 生徒会活動が大変良いという印象がある。あいさつ運動もさることながら、地域清掃(PTA・生徒会合同)も一生懸命頑張っていた。地域の方からお褒めの言葉をもらっている。地域貢献もできていると感じている。 学校:PTAの皆様にもご協力いただき、感謝しております。今後も保護者・地域の方々の力をお借りして、地域貢献のできる生徒の育成に努めて参ります。</p>
	2	学校行事	生徒を主体的に動かし、各行事のリーダーを育成することができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの学校行事の目的を意識させ、生徒が積極的に参加しようとする姿勢づくりに力を入れた。行事後に必ず感想を書かせ、毎回クラスで紹介させた。 ・偏りがないように行事ごとに責任者を決めさせ、生徒発信で活動させるようにした。担任が進捗状況を把握し、必要に応じて生徒に助言や提案をすることができた。 ・体育祭や文化祭などの学校行事では、クラス全体で協力することができ、リーダーがみんなをまとめたり、的確な指示を出すことができた。 ・文化祭では、生徒主体で展示の企画・準備・運営をさせることができた。イギリス研修や学校説明会の行事でも、生徒が自主的に動くように促し、一人一人が責任を持って行動できるようになってきた。 ・中等部では行事の目的をしっかり伝え、代表委員・各委員会の代表を中心に、中等部全体で前向きに取り組むよう指導してきた。特に野外活動やコンクールなどで、3年生は下級生の模範となってくれた。各学年でカラーが異なるが、今後もリーダーになれる生徒を育成していきたい。 	
	3	教室・校内美化	清掃指導を徹底し、教室や校内の美化に努めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部の生徒には、各自決められた場所を、責任を持って清掃することの大切さを、折あるごとに伝えてきた。意識が低い生徒もいるが、ほとんどの生徒が積極的かつ熱心に自分の役割を果たすべく、取り組んでいた。 ・ロッカーの中や周辺の整理整頓など、細かいところまで気を遣い、教室内の美化に努めたため、常に美しい教室を維持することができた。 ・生徒と一緒に教室の美化に努めてきた。無言清掃をしっかりやらせるためには、教員が自らお手本を示すことが大切である。 ・教室は毎日、大掃除並みに清掃が徹底できている。今後も生徒には「自分たちの場所は、自ら整えていく」という自主性を育てていきたい。 ・清掃だけでなく、校内に落ちているゴミは必ず拾って捨てる事や、自分の清掃場所が終了しても、他の清掃場所を手伝うなど、自主性や協調性をより身につけさせていきたい。 	
	4	貴重品管理	朝のSHR時に貴重品提出を徹底できたか。記録用紙に未提出者を記録したか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では、各クラスごと担任が係生徒にしっかり指示し、責任を持って取り組ませていた。回収時や返却時にも立ち会い、係生徒の仕事がしっかりできているかを確認した。係生徒も責任を持って良くやってくれた。 ・貴重品提出について、毎日呼びかけをした。携帯や財布を提出しなかった生徒には個々に確認をした。受験勉強のために携帯を使用していない生徒が多く、勉強に集中して取り組んでいることが分かった。 ・通常の貴重品回収以外の行事・試験日・集金日などの時も、しっかりと呼びかけをした。また、起こりうるリスクについて、折をみて生徒に話をした。 ・座席列ごとに貴重品回収袋を用意して毎日回収したり、選択授業や行事の有無により、回収方法を適宜変更するなど工夫をした。また、クラス用の記録用紙を作成し、毎日担任のいるところで回収と返却ができた。 ・貴重品管理については、全体としてしっかり取り組んでいる。今後、定期的に学年部で回収状況を確認することも取り入れて、徹底していきたい。 	
	5	防災・防犯	防災や防犯の意識を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では、年度当初に避難経路を理解させるとともに、校舎内のどこにいても自分で自分の身を守ることの大切さを教えた。登校中や家での対応についても理解させている。学期ごと定期的に避難経路を確認させている。 ・実際に起こったニュースをもとに、「そのときどのような心で、どうすべきか」ということを常に考えさせ、危機管理能力を育むことも意識させている。 ・防災に関する話し合いをグループワークに取り入れ、防災意識の向上を図った。 ・防犯予防のため、放課後の寄り道や夜間の外出などについて指導したが、一部生徒の危機管理意識が低いと感じた。近年、SNSでの個人情報流出が甚だしく、犯罪に巻き込まれる可能性があることを周知することも徹底していきたい。 ・地域防災に積極的に参加するよう呼びかけ、地域住民と協力して防災に取り組むよう指導した。これからも本校生徒が地域貢献を意識できるようにしていきたい。 	
	6	部活・生徒会	部活や生徒会を活発にし、生徒の育成ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動については、中学・高校生徒会と合同で地域清掃や挨拶運動、静岡ホーム慰問等を実施した。生徒会活動はここ数年、すばらしい活動を見せ、学校を盛り上げてくれた。特に文化祭では、生徒会企画で先生方と協力してステージを盛り上げ、生徒全体が生き生きとした雰囲気に包まれた。 ・華道部:部員で当番をつくり、ボランティアで水落交番や本校事務室前に活け込みを行った。講師の先生方の力添えもあり、活発に活動することができた。 ・茶道部:常葉祭での発表(お茶会)がより良いものになるように、生徒への意識付けを行った。特に常葉祭本番までの準備として、係分担を学年ごと明確にし、スケジュールに合わせてお手前を身につけることや、本番さながらのシミュレーションを行い、生徒の意識を高めた。 ・吹奏楽部:中高生を一つにまとめ、コンクールに向けて活動させるのは大変であった。活動を通して、協調性・責任感・規範意識は育ってきていると感じる。 ・新体操:部活を通して、人として大切なことや、周りから愛される人間になるように生活指導を行っている。 ・バスケットボール部:コート内で役割を果たし、意識すべき事の共通理解及び徹底を図るため掲示作りや選手ミーティングを徹底して行った。 	

進路指導	1	進路意識	進路行事や進路情報の提供等を通して、生徒の進路意識を高めることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では、高校進学のためにコースや系列の情報を集会・保護者会などを通じて情報を早めに伝えることができた。また、自分が興味を持っていること、得意なことを見つけて、将来につなげるにはどうすればよいかを考えさせた。 ・前年度までの受験レポートを活用し、情報提供をすることで意欲を高めさせ、準備を怠らないように指導した。また、大学入試科目の見方、入試方法等、基本的なことを教えてきた。 ・ベネッセのハイスクールオンラインや日系テレコンを活用して、クラスの生徒が必要とする多くの資料を用意し、ペアでの読み合わせやグループの活動等を通して、クラス全体の進路意識が高まるよう努めた。 ・生徒の進路希望が様々だったので、一人一人の進路希望を把握して適切な情報提供や助言ができるようにし、生徒が主体的に進路決定に臨むことができるよう指導した。 ・平成29年度から中高が附属化され、常葉大学への内部進学者に対する入試方法に変更があった。時間をかけて生徒・保護者と進路について、しっかり検討することができた。 	<p>1. 中学で実施されているスタディサブリの利用状況はどうなっているか。 学校:家庭学習や学校ではパソコン室・図書室で自主学習をすることが基本になっています。しかし、それだけではICT活用の学習習慣が身につかないため、週1回朝学習でクラスごと、また、土曜日のミドルHRの時間を使ってスタディサブリを実施しています。現在では全国でも上位の利用率となっています。</p> <p>2. 高校で実施されているクラッシーの利用状況はどうなっているか。 学校:生徒の利用については、まだ、満足できる結果は出ていませんが、来年度から高3で朝学習に取り入れ、受験勉強につなげていきたいと考えています。校内の学習センター(図書室)でi-Padも導入でき、環境も整ってきたので、全学年で積極的に利用させ、学力向上に努めていきたいと思います。</p> <p>3. キャリア教育について、 委員:OGが大学卒業後、どのような道に進んでいるのか。また、OGに社会へ出てからの話を、生徒にしてもらうのも良いのではないかと。 学校:①追跡調査をしていないため、すべてを把握できていません。 ②幅広く多くの人材と連携できたら、大変良いと思います。今後、検討させていただきます。</p> <p>4. 学校の良さは親も共有できている。 学校の良さを分かっていたいただいている方から、意見を聞くのも良いのではないかと考えています。</p>
	2	学力対策	授業や補習、朝学習等を通して、生徒の進路達成のための学力向上ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では、29年度からスタディサブリを採用し、学習ソフトを使用した予習・復習による基礎学力の定着を目指した。また、自主的に学習する姿勢を身につけさせることに重点をおいて指導した。その他に東京書籍の学力調査を新たに取り入れ、生徒自身の学力(全国比)を確認できるようにした。 ・教材研究に時間をかけ、思考の流れを意識した授業を展開した。また、学習支援が必要な生徒に対し、放課後の個人指導を頻繁に行った。 ・問題解決型課題の授業を学期に1・2回組み入れ、「考える力・表現する力」を身につけさせる工夫をした。放課後には、受験生を対象に世界史の勉強会を行い、個別指導に重点を置いて取り組んだ。 ・高3の英語は1学期に附属入試対策を重点的にを行い、2学期は一般入試・センター入試の対策として、通常の補習にも力を入れた。また、夏期・冬期の補習では生徒の学力に合わせ、課題を調整した。学力の高い生徒が多く、応用を多く取り入れ、実力養成に努めた。 	
	3	学力分析	定期試験や、模試等の結果分析をすることで、生徒にアドバイスをすることができたか	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中学では各テストの分析をすることで、生徒が理解できていない部分を把握し、確実に理解できるように授業で再確認をした。全国学力調査の事後活用が難しく、今後どのように活用し生徒の学力向上につなげていくかを検討していきたい。 ・常葉大学の附属高校入試等について、分析・アドバイスがしっかりできた。その結果、常葉大学に116名の合格者を出すことができた。今後も模試などの結果をを踏まえて、生徒と分析内容を共有し、具体的な数値目標を持たせることで、進路目標を達成できるように指導していきたい。 ・毎回、定期テストの振り返り(学習計画・反省用紙への記入)をさせ、保護者からのコメントをもらって提出させた。模試の成績表をもとに面接を行い、その後の学習計画について生徒と話し合った。 ・定期テストの際には、分野別にできたところ、できなかったところを明確にし、クラスへフィードバックした。面談ではスタディーサポートの結果を見ながら、弱点克服の対策を一緒に話し合った。 	
	4	キャリア教育	系統別講座(高1、2)または土曜講座(中、高3)の目的を理解し、生徒の取り組む意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中等部では、土曜講座(総合学習)の目的をしっかり理解させることに重点をおいた。また、担当講師の先生と密に連絡を取り合い、生徒の情報も交えながら講座内容がマンネリ化しないように努めた。両講座とも達成感、満足感が得られる充実した内容であったと思う。 ・保育系統では、保育士の役割やその活動の目的について、理解を深めさせることに重点をおいた。実際に保育園実習に行くことで、進路について改めて考える良いきっかけとなった。また、グループでの実習等で、協調性や団結力を一層深めることができていた。 ・系統別講座では、将来の人生設計を意識した取り組みを念頭において指導してきた。また、生徒が得た情報が日常のどの部分につながっているかを考えさせ、日頃の授業の中にも活かすことができた。 ・就職希望の生徒においては、土曜講座での外部講師への依頼内容を検討し、開講時の生徒の実情に合わせた内容を行い、生徒のモチベーションを高揚させた。 	
	5	資格取得	各種検定の奨励や、資格取得のための事前指導ができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信や集会で検定受験の意識付けを行った。また、生徒の検定取得状況を把握し、個人的な声かけで積極的な受験を促した。今後は各学年や集団ごと、到達目標を明確にして検定の受験指導を積極的にしていきたい。 ・英検や漢字検定などがどのように評価されるのか、また、検定合格までの学習方法を指導した。その結果、合格率を高めることができた。 漢字検定…昨年度との合格比は、28年度第3回29%:29年度第3回32.6%であった。 英語検定…2級合格全国高校生平均合格率を上回った。二次試験合格率について各級90%以上であった。面接練習の成果が出ている。 ・漢字検定に向けた学習の取り組みが遅かった。10月の一斉漢字検定のために1学期後半から学習に取り組ませることが必要であった。しかし、小テストなどを繰り返し取り組ませることで、遅れをカバーすることができた。 ・3年生の最後まで検定や資格取得の大切さや、目標を持つことの大切さを伝えてきた。事前指導は、教科の先生方の協力を得ることで、生徒の実力を向上させることができたと思う。検定直前には予想問題を解かせるなど、検定合格に向けた準備がしっかりできた。 	
	6	保護者との連携	生徒や保護者との面接を通して個別に生徒の進路意識や学習意欲を向上させることができたか	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中1は夏期に家庭訪問を行い家庭環境を把握し、生徒理解に努めた。また、保護者とは電話連絡を密にとり、心配なことがあった場合は、保護者に来校してもらった。話し合いでは、学年主任や教頭を交えて改善・解決策を検討し、保護者と協力して生徒の成長を支えることができた。中2では友人関係や生き方についての相談が多かった。相談を通じて、結果的に学校生活や学習を頑張るようになった生徒もいた。中3は落ち着いた学年であり、保護者との連携がしっかりとれていた。今後も保護者との連携を密にし、生徒の成長や善行などを伝え、保護者と協力して生徒の育成に努めていきたい。 ・三者面談等を利用し、保護者との信頼関係を構築できるように努めた。面談の中では親子の心情に配慮しつつも、必要なことは明確に話すように心がけた。 ・面談時に進路達成のための具体的な改善案を保護者、生徒とともに考え、それを実行するように促した。 ・三者面談で今やるべきことや、夏休みに取り組んでほしいことなどを伝えながら、家庭と学校が協力して生徒の学習環境を整えられるようにしてきた。保護者も気軽に学校に連絡をくれ、生徒の家庭での生活を担任に伝えてくれた。生徒を皆で見守ることができて良かった。 	